

総合戦略有識者会議委員からの意見等

○総合戦略の方向性及び現状についての意見

1 政策上の熊谷市の位置付けについて

- ・ まち・ひと・しごと創生総合戦略では基本的な考え方として、「人口減少と地域経済縮小の克服」と「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」が提起され、人口減少に対し危機感をもって人口減少克服に取り組む必要があるとしている。その柱として地方創生が謳われているところではあるが、残念ながら熊谷市を含む埼玉県北部は実態とはかけ離れ、過度に人口が集中している東京圏に位置付けられている。実際の政策・戦略においては「地方」としてエリア全体（県北）で相応の支援が受けられるよう訴えていかなければならない。
- ・ 「医（医療）・職（職業）・育（子育て）」への関心の高まりと、若年層の定住のための雇用を確保が急務。その上で住・職を接近させ、より「子育てしやすい環境」を創出することが必要である。

2 交通上の熊谷市の現状について

市民の意識調査では「交通の便が良い」「交通の便が悪い」という、相反する意見が多数について考察。時間を主に捉えれば「交通の便が良い」運賃を主に捉えれば「交通の便が悪い」となる。

東京駅からの距離と時間の比較

		路線	距離 (km)	時間 (分)	運賃 (円)
東京	熊谷	東京ライン	64.7	61	1,140
		新幹線		39	3,190
東京	高崎	東京ライン	105.0	104	1,940
		新幹線		51	4,410
東京	小山	東京ライン	80.6	70	1,490
		新幹線		42	3,540
東京	宇都宮	東京ライン	109.9	97	1,940
		新幹線		49	4,410
東京	小田原	東海道本線	83.9	76	1,490
		新幹線		34	3,220
東京	鎌倉	横須賀線	51.0	57	920
東京	平塚	東海道本線	63.8	59	1,140
東京	土浦	常磐線	69.6	65	1,140
東京	木更津	総武線	74.3	81	1,320
東京	八王子	中央線快速	47.4	65	800
東京	川越	地下鉄・東上線		60	670
東京	所沢	地下鉄・西武		50	540
東京	町田	地下鉄・小田急		56	570
東京	京王八王子	地下鉄・京王		60	560

○具体的政策の方向性にかかる意見

1 人口流出をくい止めるという考え方である社会減対策（ソフト面）

① 情報の発信の強化

- ・ 既に取り組がおこなわれている事業についてもう少し情報発信をするべき。「若年住宅購入における固定資産税課税免除」等は地元不動産業者とリンクし、もっと情報発信をするべきである。また子育て支援への取組も情報発信していくべき。

② 将来を担う子供たちへの郷土教育

- ・ 将来熊谷に戻り働いてほしいという考えから、子供たちに熊谷にはこんな企業があります、こんな所で働く場所がありますというような取組も必要。また仕事だけではなく、熊谷はこんなに良い町ですよというような、授業なども企画し、将来子供たちが住み続ける、戻ってくるような教育をする必要がある。

③ 学力面での教育充実

- ・ 現在も「学習支援充実くまびスクール事業」など新規事業としておこなわれるように、特に「熊谷の子供たちは頭が良い」「熊谷に住めば頭がよくなる」と思われるような教育をしていき、熊谷に住みたくなるような取組が必要。

④ 空き家の有効利用

- ・ 民間との協議により、空き家購入補助・空き家賃貸補助なども考えられる。積極的に取り組むことにより、安定した固定資産税の納税、住民税などの納税なども期待することができ、税収UPにもつながると考えられる。

⑤ オフィス版・空き家バンクの創設

- ・ 国の施策を利用し、企業・事業者支援施策を活用し、本社機能の一部を移転させる取り組みが効果的。「オフィス版・空き家バンク」を運用し、今ある資源として市内の空きオフィスを積極的に活用し、企業の東京一極集中を改善していくべき。

⑥ 地元学生の就職の希望をかなえるための雇用の充実

- ・ 熊谷農業高等学校の卒業生 240 人のうち半数を占める就職する生徒の希望は、地元企業への就職であり、業種を問わないため、地元企業等を受け皿として人口流出を防ぐ必要がある。

2 子育てを中心とした安心・安全な熊谷を創るための政策

① 働きながら子育てしている方に対する支援

- ・ 朝遅く出勤OK
- ・ 子どもの病気の時に休みやすい環境
- ・ 妊娠中からのケア
- ・ 託児所付きの職場を増やす
- ・ 保育園へなかなか入園できないので、企業で保育室を作って欲しい。

② 子育て中の家庭の求める支援とは

- ・ 住宅資金の補助
- ・ 税金軽減
- ・ 幼稚園、保育園費用の補助
- ・ おむつ無料化事業
- ・ 大型ショッピングセンター誘致

- ・ 予防接種の負担軽減
- ・ クールシェアのアピール強化
- ・ 暑い街だからこそ乳幼児から入れるプールを増やす
- ・ パパ、ママ応援カードの利用できる店舗の増設

③ 妊婦・初産婦の希望はどのようなものか

- ・ 産婦人科医院、病院の誘致
- ・ 妊婦中の行政に補助の充実
- ・ マタニティヨガ&エクササイズ開催（妊婦中にお互いに知り合いになれるきっかけにつながる手助けになる。）
- ・ 休日の出産費用割り増しの廃止
- ・ 2人目以降を出産する際に入院中に上の子の面倒を見てもらえる環境不足の家庭支援の充実
- ・ 出産後の健診の間隔が空きすぎるのももう少し細目に
- ・ 健診期間の間隔が広いと特に初産婦は不安
- ・ 新生児訪問の回数をもう少し増やす必要があり、期間は半年まで細やかな訪問が必要
- ・ 各産婦人科が妊婦へ子育て支援拠点の情報を提供し、妊婦中から足を運びやすい環境づくり